

「高度医療・人材育成拠点」の整備に向けた取組状況について

1 要旨・目的

全国トップレベルの高度医療の提供や医療人材の育成等の機能を持つ「高度医療・人材育成拠点」（新病院）の整備に向け、令和5年9月に策定（令和7年10月に変更）した「高度医療・人材育成拠点基本計画」に基づく新病院の医療機能や施設整備等に関する取組状況等について報告する。

2 現状・背景

- (1) 高齢化に伴って、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療を支える人的資源が縮小するとともに、多数の症例や研修体制が充実している大都市圏の病院に若手医師や研修医の集中が加速することで、県内の医師不足が顕在化することが見込まれる。
- (2) 中山間地域においては、地方の基幹病院の医師不足により、サービス供給停止・縮小を余儀なくされ、都市部に比べてより速く、医療基盤の維持が困難になることが予想される。

【新病院開院までの流れ】 ※ スケジュールは現時点の想定

拠点ビジョン → 基本構想 → 基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 建設工事 → 開院
2022年3月 2022年11月 2023年9月 2024～2027年 2027～2030年 2030年

3 概要

(1) 対象者

県民、医療関係者等

(2) 実施内容（取組状況）

ア 地方独立行政法人広島県立病院機構の経営状況について

令和7年4月に設立した地方独立行政法人広島県立病院機構における、令和7年4月～9月の経営状況及び経営改善に向けた取組等を報告する。

（ア）主な経営指標

a. 患者数

【入院】広島病院では新規患者数はほぼ横ばいだが、平均在院日数の短縮により延べ患者数は前年度と比べて減少。また、二葉の里病院では新規患者数は前年度より減少したものの、延べ患者数は前年度と比べて増加。安芸津病院では新規患者数、延べ患者数ともに前年度と比べて減少。

【外来】 広島病院、二葉の里病院では新規（初診）患者数、延べ患者数ともに前年度と比べて減少。安芸津病院では新規（初診）患者数は減少したものの、延べ患者数は前年度と比べて増加。

【4月～9月の状況】

項 目		累計（4～9月）				計画（年間）		
		R7 ①	R6 ②	対前年		R7 ③	対計画 達成率※ ①/③	
				率 ①/②	差 ①-②			
入院	広島	延べ入院患者数（人）	91,828	96,150	95.5%	▲ 4,322	206,079	44.6%
		新規患者数（人）	8,578	8,575	100.0%	3	18,007	47.6%
		平均在院日数（日）	9.4	9.7	96.9%	▲ 0.3	10.0	—
		病床稼働率（587床）（%）	85.5	—	—	—	—	—
		※627床ベース（%）	80.0	83.8	95.5%	▲ 3.8	90.0	—
	二葉の里	延べ入院患者数（人）	31,816	31,364	101.4%	452	72,781	43.7%
		新規患者数（人）	2,565	2,712	94.6%	▲ 147	6,603	38.8%
		平均在院日数（日）	10.6	10.5	101.0%	0.1	11.6	—
		病床稼働率（269床）（%）	64.6	63.7	101.4%	0.9	74.1	—
	安芸津	延べ入院患者数（人）	12,438	12,848	96.8%	▲ 410	31,025	40.1%
		新規患者数（人）	487	552	88.2%	▲ 65	1,305	37.3%
		平均在院日数（日）	20.6	17.9	115.1%	2.7	19.2	—
	病床稼働率（98床）（%）	69.4	71.6	96.8%	▲ 2.3	86.7	—	
外来	広島	延べ外来患者数（人）	121,035	122,832	98.5%	▲ 1,797	282,793	42.8%
		新規（初診）患者数（人）	9,849	9,873	99.8%	▲ 24	—	—
	二葉の里	延べ外来患者数（人）	53,815	56,277	95.6%	▲ 2,462	137,641	39.1%
		新規（初診）患者数（人）	6,128	6,786	90.3%	▲ 658	—	—
	安芸津	延べ外来患者数（人）	24,591	24,341	101.0%	250	51,215	48.0%
		新規（初診）患者数（人）	2,040	2,172	93.9%	▲ 132	—	—

b. 収益

【入院】 単価は全ての病院で前年度と比べて増加しているが、稼働額は、広島病院、安芸津病院では前年度に比べて減少。二葉の里病院では前年度に比べて増加。

【外来】 単価は、広島病院では前年度と比べて減少しているが、二葉の里病院と安芸津病院では増加。稼働額は、広島病院、二葉の里病院では前年度と比べて減少。安芸津病院では前年度に比べて増加。

【4月～9月の状況】

項 目			累計（4～9月）				計画（年間）	
			R7 ①	R6 ②	対前年		R7 ③	対計画 達成率※ ①/③
					率 ①/②	差 ①-②		
入院	広島	稼働額（百万円）	8,359	8,411	99.4%	▲ 52	18,592	45.0%
		入院単価（円）	91,034	87,482	104.1%	3,552	90,218	-
	二葉の里	稼働額（百万円）	2,002	1,941	103.1%	61	4,773	41.9%
		入院単価（円）	62,914	61,873	101.7%	1,041	65,578	-
	安芸津	稼働額（百万円）	468	469	99.8%	▲ 1	1,233	38.0%
		入院単価（円）	37,633	36,513	103.1%	1,120	39,730	-
外来	広島	稼働額（百万円）	3,383	3,438	98.4%	▲ 55	8,401	40.3%
		外来単価（円）	27,950	27,990	99.9%	▲ 40	29,708	-
	二葉の里	稼働額（百万円）	971	975	99.6%	▲ 4	2,326	41.7%
		外来単価（円）	18,040	17,323	104.1%	717	16,898	-
	安芸津	稼働額（百万円）	208	194	107.2%	14	416	50.0%
		外来単価（円）	8,463	7,963	106.3%	500	8,123	-

(参考) その他年度計画に定める主な経営指標

項 目		累計(4～9月)				計画(年間)	
		R7 ①	R6 ②	対前年		R7 ③	対計画 達成率※ ①/③
				率 ①/②	差 ①-②		
広島	救急車受入台数 (台)	3,838	3,793	101.2%	45	7,600	50.5%
	全身麻酔手術件数 (件)	2,341	2,448	95.6%	▲ 107	4,800	48.8%
	ロボット支援手術件数 (件)	114	105	108.6%	9	210	54.3%
	三次救急(ホットライン)受入率 (%)	90.2	86.1	104.8%	4.1	88.0	—
	紹介率 (%)	96.8	98.0	98.8%	▲ 1.2	96.3	—
	逆紹介率 (%)	139.5	145.2	96.1%	▲ 5.7	148.2	—
二葉の里	救急車受入台数 (台)	681	767	88.8%	▲ 86	1,600	42.6%
	全身麻酔手術件数 (件)	698	690	101.2%	8	1,368	51.0%
	内視鏡治療件数 (件)	4,392	4,389	100.1%	3	8,750	50.2%
	化学療法件数 (件)	975	842	115.8%	133	1,666	58.5%
	紹介率 (%)	73.2	74.0	98.9%	▲ 0.8	75.0	—
	逆紹介率 (%)	100.1	95.5	104.8%	4.6	95.0	—
安芸津	救急車受入台数 (台)	158	178	88.8%	▲ 20	380	41.6%
	訪問看護件数 (件)	1,220	1,063	114.8%	157	2,000	61.0%
	健(検)診件数 (件)	488	510	95.7%	▲ 22	1,150	42.4%
	紹介率 (%)	21.5	19.9	108.0%	1.6	19.0	—
	逆紹介率 (%)	27.8	23.7	117.3%	4.1	24.7	—

(イ) 経営改善の主な取組

医療連携や診療体制の強化など、経営改善に向けた各種取組を進めている。

項目	取組内容	進捗等
稼働病床数の増加	休床中の病床について、段階的に病棟の稼働を再開	・新人研修の実施や社会人採用の強化(実務経験者4名採用)、関係病院からの看護師派遣等により、令和7年度当初の587床から、10月より1病棟(西6病棟)を再開し、627床を稼働【広島病院】
急性期医療の充実強化	心疾患治療の強化に向け、最新のアブレーション治療機器を導入	・自院での対応が増加し、経皮的カテーテル心筋焼灼術は前年同月比+16件(8月末)【広島病院】
	ハイブリッド手術室の本格稼働	・7月よりハイブリッド手術室を本格稼働【広島病院】 ※10月に心臓外科医が赴任したことからTAVI認定施設の手続き準備を進めている。 (心臓外科医8月～+1人、10月～+1人)
	内視鏡治療等日帰り手術の強化	・手術支援ロボットの活用等による手術症例の拡大【二葉の里病院】
救急患者の受入強化	救急外来での患者受入強化とともに、入院が必要な患者について、内科系診療科全般で受入を強化	・昼間の救急患者受け入れ強化を目指し、6月から総合診療科の専用電話番号設置【広島病院】 ※救急外来から総合診療科への直接入院は前年同月比+29件(8月末)
外来機能の強化	病院相互の診療応援の実施	・WG等を設置し、強化に向けた具体的な取組を検討【広島病院・二葉の里病院】

紹介・逆紹介の強化	医療機関との連携を高め、紹介患者受入数を増加	・紹介時対応の改善に向けた、予約受付マニュアルの改善や紹介受付の時間延長に関する検討に着手 【広島病院】
診療材料の共同購入	一括購入を通じたスケールメリットの確保	・医療機器等の購入時のスケールメリットを生かした共同交渉などに連携して取り組む仕組みづくりに向け、11月時点で地域の18病院（11法人）と連携協定を締結【3病院ほか】 ・委託業務のうち、仕様の統一が可能なものについて共同委託を検討【3病院】（例：産業廃棄物処理業務）
業務委託の共同発注	共同発注によるスケールメリットの確保	

イ 外観パースの作成について

高度医療・人材育成拠点（新病院）計画の具体化に向けて、予定される外観ならびに周辺の風景をもとにCGを用いた鳥瞰パースを作成した。

【鳥瞰パース】

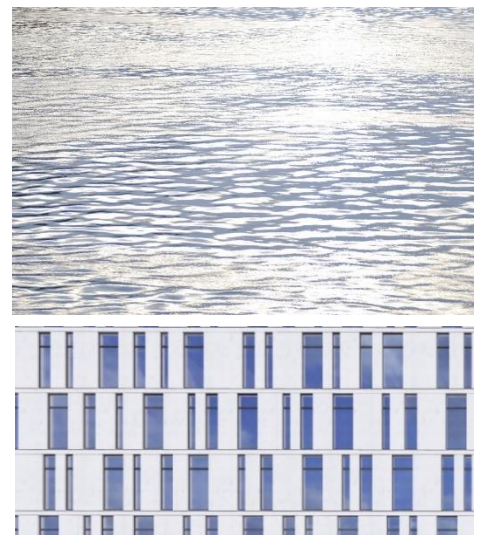


【デザインコンセプト】

「みなも ～穏やかな瀬戸内のきらめき～」

広島を象徴する川や海の穏やかな「みなも」に、光がやさしくきらめく様子を、建物の外壁に表現した。大中小の縦長窓をランダムに配置することで、自然の光が揺らめくような表情を生み出している。

新病院が担う多層的な役割をやさしく包み込む器として、「みなも」に映る光のように、やさしく、あたたかく、そして確かな存在として、新病院が、広島の未来を照らす新たなシンボルとなることを目指す。



ウ 交通量調査

新病院の開院へ向けて周辺道路や既存交差点への影響を検証するため、昨年度に引き続き3回目の交通量調査を実施した。

【調査日】令和7年9月3日（水）（参考：過去の調査 R6.7.10(水)、R5.4.26(水)）

【調査位置】来退院の想定ルート上に位置する10交差点（新幹線口（西）交差点ほか）

【調査結果】昨年度と同様に、一部の交差点において信号時間の調整を要するものの、いずれの交差点においても問題ない状況であった。

（新幹線口（西）交差点：交差点需要率：0.803(R7)、0.802(R6)、0.805(R5)

方向別交通容量比：1.135(R7)、1.135(R6)、1.135(R5)）

【今後の方針】今後も適時調査し交通実態を把握するとともに、関係機関とも連携を図り周辺交通への影響を最小限に抑えるよう努める。

（※1）交差点需要率

交差点需要率とは、単位時間内に交差点が信号で処理できる交通量に対し、実際に流入する交通量の比率のこと。一般的に信号制御による損失を考慮した概ね0.9（詳細は交差点毎に計算）が円滑な交通処理が出来る判断基準とされている。

（※2）方向別交通容量比

交通容量比とは、各車線の混雑の度合いを把握するための指標のこと。

交通容量比＝流入交通量A／可能交通容量B

流入交通量A：実際に交差点に流入する交通量

可能交通容量B：各車線毎の道路条件及び交通条件で通過できる交通量（理論値）

交通容量比が1.0以上の場合、交差点を通過するために複数回の信号待ちが生じる可能性がある。

(3) 予算額（一部国庫）

令和7年度当初予算額 67,073,308 千円（債務負担行為額 1,249,000 千円）

(4) その他

高度医療・人材育成拠点の整備について（広島県 HP）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/276/koudoiryou-jinzaiikuseikyoten.html>

（※高度医療・人材育成拠点基本計画や基本構想、各種会議資料などを掲載）



地方独立行政法人広島県立病院機構について（法人 HP）

<https://hpho.jp/>

（※機構概要、病院紹介などを掲載）

